

2018 年 WS 会議はアメリカ・フロリダ州 サラソタにて、10 月 27 日から 11 月 4 日かけて開催された。今回は初日の一番に開催された Coach's Commission（自分は Vice Chair）から、最終日の AGM まで傍聴し、特に 2024 年五輪に関して WS がどのように舵取りするかに焦点をおいて、いくつかの会議に足を運んだ。

1) Coach's Commission

Michele Marchesini (ITA, Chair)

Aiko Saito (JPN, Vice Chair)

George Fundak (AUT)

Anastasia Chernova (RUS)

Victor Kovalenko (AUS) — 欠席

Pedro Rodrigues (WS Event Manager)

Michel Downnig (WS Olympic Manager)

Alastair Fox (WS Director of Events — 他の会議が延長したため欠席

以下の項目について現状をまとめ、Michele (Chair) から Board (執行部) へ報告した。

1 東京 2020

- ・ Venue 夏の強風では OK。陸風はレースエリアの場所を考える必要あり。
- ・ Delay 漁業に予定を左右されるのは無理。レースコースに漁船が入るのは危険。
- ・ 定置網 見にくい。来年までに目印が必要
- ・ Field of Play、レースコミッティーへは WS からプッシュが必要。
青いマークは見えない。
水深の深さ対策、運営のスピードアップ
- ・ アスリートサービスは暑熱対策でのスペース、大会以外の期間の食事、弁当が不便。
- ・ トランスポート 大磯から江の島 Frequency、渋滞対策は？
- ・ Water Quality test—3 年分の報告がない。
- ・ ボランティア、スロープでの補助は助かった。
- ・ イベント責任者の顔が見えない。→大庭さんがフルタイムでマネージャーになる。
- ・ 2019 年のコーチボート規定は、オリンピック同様で出す。
コーチボートの数等をオフィスの結果から分析して振り返る。
- ・ Technical ドーピング — 艇の改造、気象ブイ、コーチボート計器
(オリンピックでは禁止)

東京に関する要望は各 MNA から NOC へ質問と要望をあげて、NOC から WS へ要望を出

してもらふ手順となる。

② コーチの登録

- ・オリンピックリンクイベントではMNAがコーチを登録する。
- ・要項を定めて、MNAから推薦する。
- ・コーチとサポートパーソンの区分 — ボートの運転をするかどうか。
- ・違反時の罰則 — レースコースへのアクセスを禁止する

③ Jan Stage (DEN) Race Officials Committee Chair から以下の項目の意見を求められた。

- ・コーチのヒアリング ルールが変わる。
選手が失格になるのは、コーチが警告を受けて2度目の違反をしたら、失格。
コーチが気象情報を外から知ったら・・・セーラーは知らない間の違反。
コーチしか知らない。
ヒアリング:レポートでよい。60.3
プロテストフォームを使って、レポートができる。
コーチのライセンス制度
サポートチームレギュレーションをWSには適用するが、クラスイベントにもって
いけるかどうか。

④ 怪我 Medical Comission WP 大会でのしくみを調査、構築中

ナクラ — 死人がでるまでやるのか???怪我の現状を知るべきではないか。
フォイリング艇のパフォーマンス、フリートレースのフォーマット、レース艇数
スピードに対する安全確保ができないまま、事故につながっている。

2) Youth Events Sub Committee (傍聴)

今年の大会の報告と今後の大会の情報提供

Antonio 退任、Pedro が引き継ぎ。2014年のポルトガル大会のチーフオーガナイザー

① WS Youth World Championship 2018のレポートから今後の課題

- ・コーチボート — 4エリアあるのに3コーチで対応しきれない。
コーチは海にでず、陸で送り出してくれたらいい、というコメントもでていた。
- ・最終日の夜のパーティーが問題になる。
チームリーダーにメッセージを伝え続け、難しい年代のユースをコントロールする。
特別なイベントなので、最終日はパーティープランを準備すること。
- ・メディア対応もっと必要。
- ・ニュージーランド大会で使った大会アプリが良かった。今回も欲しかった。
- ・チャーター艇の返却が公平ではない。

- ・サステナビリティが良かった。
海を綺麗にする活動 知識、
実行するやる気、情熱、ハードワーク
ゴールを設定することで情熱がわいていく
大会が終わった後に自分がやったことを友人とシェアしている。
Water bottle プラスチックをなくす ゴミ箱設置も。
- ・チャーター艇の輸送コンテナ 18 個。65 か国、382 セーラー、110 コーチ、
119 レース運営艇、380 運営。

② ユース五輪の報告

- ・IOC のオリンピックへのメッセージが発信された大会であった。
- ・100 人のエントリー、年齢制限が前回から変更。
99 名、中国ウインドサーフィン選手が怪我で欠場。
- ・大会は成功。しかしながら、メディアカバーが少ないのが課題。
- ・予選のやり方も改善が必要。
- ・ダウンタウンでやりたかったが、競技会場はサンセドロ。選手村から 2 時間通勤。
- ・コーチボートは自国の分ではなく、常にシェア。
- ・ナクラはアルゼンチンが金メダルを獲得。開催国の金メダルは重要な要素。
- ・スラロームはフォーマットが悪く、待ち時間が長かった。
- ・カイトはアンパイアの判定の影響が大きかった。
- ・今回はアフリカの Dakar2022 セネガル
- ・セーリング競技はどうあるべきか。

③ ポーランド 2019 年大会

- ・7 月 13 日-21 日、いろいろな天候と風域（今年は 3 週間の間、乗れない日は 2 日）
- ・ボートパークは 2 箇所が候補 どちらもホテルから徒歩 5 - 10 分
- ・ハーバーオーソリティーと許可（ボンツーン）待ち、費用の問題もある。
- ・市街中心に近い。
- ・大学の施設を使ってレース運営する。
- ・ビーチ前の 4 エリアを作る。ビーチ側は風がよくないかもしれないが。
- ・各国チームの宿泊はメルキュールホテル。1 部屋 2 名か 3 名ずつ。
- ・役員、他、マリオットがオフィシャルのホテル シングル、
- ・Snapchat - geofilter アプリを使う
- ・エヴァが若いオフィシャルを教育中。今年の夏の大会も運営している。

④ ブラジル 2020 年大会

- ・12 月開催、サルバドール、契約進行中
- ・会場はミリタリーのベースからビーチを使う。

- ・宿泊はホテルからバスで移動、全員一緒。

⑤ 2021 と 2022 招致情報

- ・中国・三亜大会を例に、必要なものが揃ったコンパクトな場所を求めている。
260 艇と 60 ウインド
オフィス、ジュリー 3 部屋、
レスキューは 10 艇に 1 艇の割合
- ・参加国を広げていくために、ENP を実施。 スポンサーが必要。
新しい国。大人は 4 年に一度の swc で実施する。
今後はユースの分をまとめることを考えている。
- ・今後の招致手続きの進め方は： （イベントマニュアルがある）
2019 年 3 月までにビッドガイダンスがでる。
4 月にロンドンの WS にてプレゼン。5 月にセレクション終了。6 月に決定。

⑥ 安全

- ・ナクラの沈 — ヘルメットのトップを目出す色（17 と同じように）
- ・笛を持つのがよいのではないか。

⑦ その他

- ・ユースワールドのクラスが変わるとしたら、2021 年から。
- ・ユースはメダルレースしない。
オリンピックでやるとしても、ユースは最初から最後までいっしょにレースする。
- ・ジュニアの年代は？最年少の年齢、区分の研究が必要。

3) Olympic Class Sub Committee (傍聴)

1 ワールドカップの 2019 から 2020

- ・ジェノアの日程が変更。イエールとの問題を片付けるのに時間がかかった。
- ・江の島はエントリー制限がかかるだろうが、マイアミとジェノアはオープン。
日程の設定が変更になったため、470 と RSX は欧州が重なる。
2020 の春のスケジュールが混雑している。
- ・フリーサイズ。レース日、アントニオがやりかけ。今後整理していく。
- ・ワールドカップのオフィシャル。江の島クラスによってレベルが低い。
ジュリーのレベルも低い。
新人を投入することは必要だが、レベルが下がりすぎるのはよくない。

② オーフスの報告

- ・カイトの会場がメインハーバーから遠かった。

- ・スケジュール カイトとナクラ荒天でできなかった。
- ・制限が多すぎた。ローカルの規定も多すぎ。
- ・Quota サイズを見直す必要あり。
Quota グループのサイズ、数、エリアと連携してきめてほしい
- ・終わった人が帰るので、最後は殺伐としている。
- ・イベント価値、シティーの判定、報道された割合
- ・エリアの設定は地形を考えて。
- ・レーススケジュール、翌日のレースがわからず、レース数も足りない。
- ・レジストレーションの仕組み ヘイグへ向けて話しを始める。
- ・2回、Combined Meeting 提案があった。EVENTS WP にて検討中。

③ 東京テストイベント (SWC)の報告から課題

- ・組織委員会はIOC から予算を減らすようにプレッシャーがかかり、SWC がテスト
2019 年のテストイベントはSWC と別に実施する。
- ・漁業組合、 FOP、本番の対策できていない
- ・RM チーム 夏の海風に対応した用具がない。
- ・コアチームが誰が責任者なのかわからない。
- ・過去のウェザーデータ、水質調査が未発表、

④ Race Management Appointment Working Party

- ・ボードメンバーからの指示でできたワーキングパーティー
- ・レガッタへの推薦がくる。調整をして、足りない可能性を考えて、補欠を作っておく。
- ・ワールドカップは1回だけ。
- ・男女の数を揃えていくことを言われている。50 : 50 が 2024 年への目標。
オリンピッククラスだけ対象。
- ・クラスのイベントはボランティアワーク。
レースオフィサーとジャッジ、メジャラーの女性が不足。

⑤ カレンダーとランキング

- ・あと 2 年はシステムを変更しない。問題点はアップデートする。
- ・ISAF セーラー ID と成績で連動している。

⑥ World Sailing Event Strategy WP

- ・今から 5 月までコンサルティング時間が必要。
- ・カレンダー 2024 と 2028、 ワールドカップファイナルを終了するか。
今、あるイベントを使うか、どうする？

⑦ Sports presentation

- ・テクノロジーを使って、プロテストへの情報にする。
- ・マーカスはSAPで8年、トラッキングを使ってシステム構築
- ・教育、観衆の理解 レースマネジメント
- ・課題1 ブロードキャストのコスト削減
- ・課題2 オンボードユニットのデザイン、ドローンの導入、カメラの開発、2個
- ・課題3 OCS の判定
- ・システムは改善できるが、中継小屋を増やし、中継ボランティアを増やす。
- ・最初はOCS だけかもしれないが、それができればケースも見たいと発展するだろう。
- ・セール番号がデジタルだと映像では見にくい。セールへの国旗も必要。
- ・オリンピックと同じフォーマットで競技するというのが目標

10月28日は朝から Urgent Submission で、ボードから、オリンピック種目に2人乗りキールボート男女混合種目を入れて、シングルハンド男女混合を無くすという案が 37-18、58-18 という2段階での承認の案が提出された。その後はロビー活動が始まり、特にフィン級の支持者が声かけに奔走しだした Equipment Committee と Events Committee はそれを受けての議事進行となった。

4) Equipment Committee (傍聴)

通年と同じく、スピードレコード、新規クラス登録、廃止などの審議。

オリンピック艇については、従来のサブミッション番号順ではなく、イベントごとに審議した。フォーマットが先か、艇の選出が先かという議論もあったが、Equipment Committee の役割は艇を選ぶことと、割り切って進められた。

① カイト男女混合は 97-18 を承認。

製造、ディストリビューター、3ー4ビルダー、1ビルダーに集中しつつある。

1 ボード、1 フォイル、4 カイト

② Mix 2 person Dinghy – 470 が該当する種目

058-18, 075-18 が該当する。違いは女子ヘルムスマンの体重が 50kg か 55kg かの違い。

058 の Criteria だけが使われる。Evauation を行うが、既存のクラスで国際的に普及しているクラスは少なく、470 以外に対抗馬が出た際には書類審査をする。なければ、できるだけ早く決定する。

③ Widsurfing

091-18 が承認された。フォイリング艇、コースは風速によってコース、スラローム、マラソン

④ Mix 1 person Dinghy

同じサイズのハル、セールプランだけ男女で分けるなど、いくつかの提案がでた。

女子は女子、男子は殆どがフィンを想定、ムストースキフ、レーザーでのチームレース

適切なものがなく、フィンを残すことに無理があることが理解できる。

082-18 しか該当するものがない。

Equipment Committee は手詰まり。

⑤ Mix 2 person Keelboat offshore

ボードから Urgent Submission で出された 37-18 が承認され、082 と 037 とで議論。

投票の結果は、037 が 10 票、3 票棄権。082 は 0

フィンからは Mid Year Meeting で決まった M22-18 ではシングルハンド混合の男女はフィンと女子軽量用の艇、ダブルハンドは 47 0 男女と決まっているという戦法で攻めた。しかしながら、Equipment C の結論はキールボートであった。

その他

Events Committee と Council は大谷さん、AGM は望月さんがメンバーなので、報告はお任せしたい。

Equipment C で最初に結論がでた後、Event C ではまずキールボートを承認するかどうかから話がまった。9 月に WS のアンダーソン会長が来日した時にはシングルハンド男子、女子をフィンと女子軽量クラスにして、シングル混合をレーザーとラジアルという、デンマークと北欧の国々がサブミッションをだしていた案を聞いた。Equipment C では Regulation 23 に従って艇の選出を進めるため、Submission がないからといってその場で勝手に新たな案を作成することはできない。手詰まりになった原因は、フィンが残るための適切な艇種を選べる案がなかったことにある。また、Events C でもシングル混合の適切なフォーマットがなく、でてきたものの中に、「これをやってみよう！」という名案が見当たらなかった。フィンがシングルハンド男子というのは苦肉の策だったのかもしれないが、そこにフランスが 2024 組織委員会のスポーツマネージャーを巻き込んで種目の変更に乗り出し、作戦通りに逆転プランを遂行した。カウンスルでは難しい 75% をクリアしてサブミッション 037-18 を通すことができ、AGM では多くの MNA が意見を述べた後、カウンスルの決定に賛成 47、反対 17、棄権 4、逆転がならなかった。

多くの MNA から、一度に新種類の艇に入れ替えられてしまうと、艇の購入から始まる経済的負担が大きすぎて追いつけないという意見がでていたこともあり、RSX は 2024 年までは RSX で、その間にフォイリングでのレースや販売が世界各地に広がり、時間をかけて新しい流れに移行していく案で多くの支持を得た。同じ理由でダブルハンド男女混合種目は 470 が多くの支持を得ている。まだ決定アナウンスのない RSX 男女、470 男女混合、レーザー男子、ラジアル女子については来年 5 月をめどに手続きが進んでいく。10 種目がカイト、ウインドサーフィン、シングルハンド、ダブルハンド混合、スキフ、キールボート混合となり、セーリング全体を網羅するような組み合わせになった。

最終的に以下のとおり。

This confirmed the slate of Events for Paris 2024 as:

Men's Windsurfer - RS:X* — コース、スラローム、マラソン

Women's Windsurfer - RS:X* — 男子と同様

Men's One Person Dinghy - Laser* — コース、メダルレース

Women's One Person Dinghy - Laser Radial* — コース、メダルレース

Mixed Kite - TBC — コース、リーチングスタート、スラローム

Mixed Two Person Dinghy - TBC — コース、メダルレース

Women's Skiff - 49erFX — コース、メダルレース

Men's Skiff - 49er — コース、メダルレース

Mixed Two Person Multihull - Nacra 17 — コース、メダルレース

Mixed Two Person Keelboat Offshore - TBC — ショートオフショア（世界選手権と同様）

フォーマットについては2019年から各地の大会でテストをする。特にメダルレース。

*subject to separate equipment re-evaluation

今回の決定のプロセスを見ていくと、World Sailing のガバナンスは、複雑でわかりにくい。Equipment や Events で決定したことが Council で否認されることはたびたび目にするが、カウンスルの決定を覆すなら、AGM でそれも可能。今回も AGM が終わるまで、どうなるかわからないと、大勢がハラハラしながら AGM に出ていたと思う。もっとシンプルにして、責任範囲と決定権を明確にするため、ガバナンス・コミッションを立ち上げ、現状の分析が始まった。オリンピック種目の選択がひと段落するとすぐにガバナンスが見直されることになる。

10月30日にはAwardパーティーがあり、Sailors of the year 男女を含む8つの賞が授与された。また、Safety in Sailing とオフショアとキールボートレースの今後というフォーラムが開催された。どちらもプレゼンターからの情報が適格で、充実した内容であった。中でも、Sailing League の開催は日本でも可能なのではないかと興味を持った。

噂が先行する中で、書類をよく読み、会議の話の内容をきちんとフォローすることの重要性を感じた。アジア諸国、国際470協会ともよくコミュニケーションをとり、誤解をしている部分は河野会長、大谷さんからよく説明をした。まだ、470決定まで油断はできないので、引き続きフォローしていきたい。

